

第 3 回 館山市議会定例会会議録
(第 3 号)

1 昭和61年9月17日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 23名

1番 神田 守隆
3番 山中金治郎
5番 横溝 功
7番 榎本 春光
9番 福原 勤
12番 石井 謀
15番 渡辺 昭夫
17番 近藤 好雄
21番 吉田勇治郎
23番 伊賀 多朗
25番 五十嵐 昇
27番 安西 益男

2番 田沢 勝信
4番 小宮 利夫
6番 生稻 陞
8番 日下 君敏
11番 飯田 義男
14番 伊藤幸太郎
16番 松下 正己
19番 黒川 平治
22番 林 豊
24番 流山源次郎
26番 石井 正

1 欠席議員 3名

10番 川名 正二
20番 石井 武敏

13番 石井 昌治

1 出席説明員

市長 半澤 良一
収入役 山田 俊康
総務部長 飯野 芳郎
経済部長 安西 良一
教育委員会 高橋 弘之
教育委員 会長

助役 小倉 澄男
市長公室長 斉藤 武男
民生部長 渡辺 弘
水道課長 石井 敏夫
教育委員会 福原 修
教育委員 会長

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第3号)

昭和61年9月17日午前10時開議

日程第1 議案第52号 昭和61年度館山市一般会計補正予算(第4号)の専決処分の承認について

議案第53号 議会の議決に付すべき契約及び財産の取得

- 又は処分に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 日程第2 { 議案第54号 字の区域及び名称の変更について
- 議案第55号 館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第56号 館山市水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第57号 館山市国民宿舎事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 日程第3 議案第58号 昭和61年度館山市一般会計補正予算(第5号)
- 日程第4 請願第4号 非課税貯蓄制度存続に関する請願書

開 議 午前10時03分

○議長(伊賀多朗君) 本日の出席議員数22名、これより第3回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長(伊賀多朗君) 日程第1、議案第52号昭和61年度館山市一般会計補正予算(第4号)の専決処分の承認についてを議題といたします。

質疑応答

○議長(伊賀多朗君) これより質疑を行います。

○1番(神田守隆君) 御手洗山の治山工事に関しての専決処分ということでございます。この点について2点ほど伺いたします。

1つは、58年の10月にこの御手洗山が崩壊をしたということで、60年度で復旧の工事をしておるわけですが、58年度の崩壊によって行った工事とそれから今度の治山工事というのは場所的には全く別のことなのか、あるいは同じ場所で前回やった工事が結果的には全く

むだになってしまった、こういうことなのか。

それと、もう1点は、前回の工事にあたっては住民負担がそれなりにあった、今回は住民負担なしにやられたということで、その辺についてはどのような考え方でなされたものなのか。住民負担はなるべく私はない方がいいと思うわけなんです、どういう点が前回と違っておるのかお聞かせいただきたい。

◎経済部長（安西良一君） ただいまの第1点目の場所についてということでございますが、57年の10月の台風10号によります土砂の崩壊場所でございますが——今回の台風10号によります土砂の崩壊場所がどうか、因果関係がどうかということでございますが、57年のときに崩壊いたしました位置よりもさらに奥の方、高い場所から崩れております。そして、前の台風10号によりますときに復旧いたしまして、そこに土どめ工事をいたしました、それを乗り越えまして約700立米の土砂がさらに押し流してきたという状況でございます。

それから、次の第2点目の地元負担金をとらない理由は何かという御質問でございますが、57年の台風10号によります復旧が60年度に行われまして、これに伴います地元負担金を徴しまして、そして復旧したばかりということが第1点と、それ以外に部落といたしまして土砂の崩壊によります社殿の——本殿の方でございますが、それが全く倒壊してしまった、それに拝殿から本殿につながります廊下といいましょうか、その部分も壊れた、あるいはみこしのおかりや等も大分損害を受けてほとんど使えない状況にあるということで、地元といたしましてもこれから大変多額のお金を要するというような事態でございますので、市といたしましてもそこに若干無理があるのではなかろうかというようなことで、今回徴しないことにしたということでございます。

以上でございます。

◎1番（神田守隆君） そうした事情の中で地元の負担をとらないということは大変結構なことですし、そういうことでやったことについては大変よかったと思うんですが……。

そうすると、前の方なんですけれども、前回の工事箇所よりも上の方から崩壊をしたということだと、前回やった工事については全然むだ

になってしまった、こんなことになっているんじゃないかと思うんですが、そういうことはないのかどうか。

○経済部長（安西良一君） 前回の工事がむだになったかどうかということでございますが、前回のものといたしますと、まず土砂の取り除きを前回はいたしてございます。それとコンクリートの土どめ工事を18mにわたりまして実施してございます。そのほか木柵等によりましてさらに土砂の崩壊があった場合にそれを防ぐ、最小限にとどめようということでの工事がなされております。そのほか、ふせ工といひまして芝、あるいはしいの木等の植栽工も行っておりますが、これらについてコンクリートの土どめ工事を行いましたそのものは残っております。しかしながらその土どめを越えまして700立米という大量の土砂が押し流したということでございますので、前回のものは全くむだだというわけではございません。そのように思っております。

以上でございます。

○1番（神田守隆君） 災害に基づくものですから、予想を超えることがあろうかと思うんですが、十分な工事を今回していただくということで、今後こうした事故——天災に基づくものではすけれども、やったばかりということがちょっとあるものですから、工事をして1年もしないうちの事故ということで、今度やって天災だから何年に1回という形でくるものでしょうけれども、今回の土砂の流出をもたらしたような事故というのは何年に1回出てくるものなのか、その辺なんかについて今後はないというようなことで御説明が得られないものかと思うんですが、いかがですか。

○経済部長（安西良一君） 今度の土砂の崩壊によります工事の対策といたしまして、現状を見ますと、かなり奥の方から大量の水が地中にさして、そして上にあります土砂、あるいは木もろともに流したという状況でございます。そういうことから、今回の事故は押し流した土砂の大部分を取り除く。そして、また周囲等も見ますとさらに上の方は絶対大丈夫だというような保証はございませんで、どの辺から水がさし込んでいるのか現状わからないような状況でございます。そういうことでまず土砂を取り除くということと、それから、途中から水抜きをするという

ような工事を現在考えております。そして、さらに来年度県の方の補助がいただけますならば、それにも増しまして土どめ工事をしていくというようなことを考えております。

以上でございます。

○議長（伊賀多朗君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（伊賀多朗君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（伊賀多朗君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決しました。

これより討論を行います。

討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（伊賀多朗君） これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（伊賀多朗君） 御異議なしと認めます。よって、本案は承認することに決しました。

議案の上程

○議長（伊賀多朗君） 日程第2、議案第53号乃至議案第57号の各議案を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

○議長（伊賀多朗君） これより質疑を行います。

通告がありましたので、発言を許します。

1 番議員神田守隆君。御登壇願います。

(1 番議員神田守隆君登壇)

○1 番 (神田守隆君) 議案の第 5 3 号議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の一部を改正する条例についてお尋ねいたします。

不動産の信託の受益権の買い入れもしくは売り払いを今回自治法の改正に伴って条例の一部改正として加える、こういうことでありますが、この法改正はいわゆる中曽根政治のもとでの民活導入論に基づくもので、大都市の中心部分の再開発等に対し公共用地を大資本が有利に活用しようとするものであるというふうに思うわけですが、地方都市としての当市にとっては現実性があまりないのではないかと、こういうふうに考えられるわけがあります。

そこで、市は今回の改正により何らかのメリットを感じておられておるかどうか、御説明をいただきたい。

次に、市の普通財産で信託の検討になるようなものが現実的にあるのかどうかお聞かせをいただきたい。

第 3 に、議案第 5 6 号及び第 5 7 号それぞれ水道事業、国民宿舎事業においても不動産の信託の受益権の買い入れもしくは譲渡を加えるとの趣旨の条例改正であります。水道事業や国民宿舎事業などの地方公営企業では通常普通財産というものは考えにくいものだと思います。そこで、こうした当市の水道事業あるいは国民宿舎事業で信託の検討になるような財産というものがあるのかどうかお聞かせをいただきたいと思うわけがあります。

以上、3 点にわたって御質問いたしました。御答弁によりまして再質問いたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長 (半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

議案第 5 3 号、5 6 号、5 7 号についての御質問でございますが、公有地への土地信託制度の導入にあたり、市の保有する財産の中で具体的に検討に値する土地があるかという御質問でございますが、現時点では特に該当する土地はございません。

信託のメリットにつきましては、土地信託を行う場合、最低条件として事業採算がとれること、土地信託を導入すべき利用価値の高い未利用地があることが考えられますが、現実性という点からは信託会社の思惑もあろうかと思いますので、館山市においてはなかなか難しいのではないかと考えております。

なお、水道会計、国民宿舎会計におきましては、該当する土地はございません。

答弁を終わります。

○議長（伊賀多朗君） 以上で1番議員君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（伊賀多朗君） ただいま議題となっております議案第53号乃至議案第57号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託をいたします。

議案の上程

○議長（伊賀多朗君） 日程第3、議案第58号昭和61年度館山市一般会計補正予算（第5号）を議題といたします。

質疑応答

○議長（伊賀多朗君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

1番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1番議員神田守隆君登壇）

○1番（神田守隆君） 議案の第58号昭和61年度の一般会計の補正予算第5号についてお尋ねをいたします。

議案の7条になりますが、コミュニティセンター費として高圧受電盤等改修工事請負費ということで529万4000円の工事費が計上されておるわけであります。説明書によりますと、7月10日に落雷があっ

て、そのために高圧受電盤及び関連設備の一部損傷があり、それに伴う改修工事である、こういうことであります。

そこで、まず御質問したい第1点は、落雷によるということですが、こうした落雷事故の災害防除についてであります。防災設備保守点検ということで昭和60年度の決算の中でも支出がされておるわけですが、こうした落雷事故に対する防災対策はどのようなになっているのか。

次に、事故が起きたその後のことでありますが、市の建物については建物総合損害共済に加入をしているわけであります。こうした中において今回の事故についてはこうした共済金の給付の対象になっておるのかどうなのか、その辺をお聞かせいただきたいと思います。

次に、10号であります。都市計画費の中で街路用地購入費ということで8030万円の増額の補正がされております。説明書によりますと、2240平米の土地を購入するための購入代の増加分で、購入箇所変更に伴う増加である、こういうことであります。

そこで、今回買収しようとする予定について地主との話し合いがついた上での御提案だというふうに理解するわけで、その内容について御説明いただきたいと思います。

次に、都市計画街路八幡高井線について、土地買収をこれまで逐一進めてきたわけですが、今回の買収によってこの進捗率についてはどこまできておるのか御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問いたします。

(教育長福原 修君登壇)

○教育長(福原 修君) お答えいたします。

コミュニティセンターは、建築基準法に基づきましてつくられておりまして、20m以下でございますので避雷針の設置は必要がなく、また保守点検の上からも落雷ということは予想されませんでした。

今回の場合も、コミュニティセンターの建物には落雷はなかったんでございます。落雷と予想されている場所は、コミュニティセンターから約100m離れた高圧ケーブルの引き込み電柱に落雷したものと予測されておるわけでございます。その電柱からケーブルが続いておりま

して、そして受電盤に損傷を与え、また多分そのケーブルにも損傷を与えたのではないかと、こういうようなことでございます。

2点目の、事故後の問題としての、建物総合共済の給付対象とはならないかということでございますけれども、市が加入しております建物総合損害共済の対象物件となっておりますので、修復工事完了次第、社団法人全国市有物件災害共済会に給付請求する予定でございます。

以上でございます。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 都市計画街路事業八幡高井線についての御質問でございますが、用地買収の状況につきましては、国道127号から鉾山バイパスまでの間でございまして、その進捗率は約65%になっております。

今回、買収予定の内容につきましては、地目は八幡神社の境内地で、面積は約2240㎡でございます。

以上、答弁を終わります。

◎1番(神田守隆君) そうすると、落雷の話なんですけれども、高圧ケーブルに落ちたということだと、もらい災害といったらいいんですかね、直接的には市の所有物件でないところに落雷があって、そこから被害が市の物件に及んだ、ということなのかどうか。

それから、建物総合損害共済の給付が受けられるということでありますから、共済金の給付を受けられるということで申請をするということでありますから、実際に529万4000円という改修工事費が今回の補正予算に出ていますけれども、給付の内容というのはこれそのものというふうに理解をしてよろしいのか。

以上、2つお聞かせいただきたいと思います。

それから、八幡高井線の問題については、65%の進捗ということでありますから、これについては以上で質問を打ち切ります。

◎教育長(福原 修君) もらい事故ではないかということでございますけれども、電柱に落ちましたと認定していただいたのは工事を行いました中立的——東京電力関係の会社でございますが、そこから高圧ケーブルがつながってございましたものですから、高圧ケーブルを伝わって高

圧受電盤まできたんじゃないだろうか、このように考えられますので、やむを得ない私たちの事故であろう、こういうように考えておるわけでございます。

それから、損害保険の方の529万カバーできるかということでございますけれども、カバーできる予定でございます。

以上でございます。

○議長（伊賀多朗君） 以上で1番議員君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（伊賀多朗君） ただいま議題となっております議案第58号は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託をいたします。

請願書の上程

○議長（伊賀多朗君） 日程第4、請願第4号非課税貯蓄制度存続に関する請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（伊賀多朗君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（伊賀多朗君） 次に、請願趣旨につき紹介議員の説明を求めます。

（25番議員五十嵐 昇君登壇）

○25番（五十嵐 昇君） 非課税貯蓄制度存続に関する請願。

まず、請願の要旨でございますが、郵便貯金非課税制度及び少額貯蓄制度の現行制度存続に係る諸機関への意見書の提出を求める請願として、請願者館山市大戸196の4番地、田村輝夫氏より市議会議長あ

てに対し請願書が提出され、地方自治法第124条の規定に基づきわれわれ数人の者がこの趣旨に賛同し、紹介議員の役を引き受けたのであります。

そもそも請願の理由として、この問題は去る59年非課税貯蓄制度の見直し問題に関し、当館山市議会においても非課税貯蓄制度は存続すべきであるとの議決を採択し、その後この制度は堅持され、一応の決着をみたところでありましたが、昭和62年度の税制の抜本的改革等の中で、行革審、経済研究会及び政府税制調査会でこの制度は見直すべきとか、あるいは廃止せよとかの報告、議論がなされており、現在のいわゆる非課税貯蓄制度の維持に一段と厳しい情勢に立ち至っている現状でございます。

思うに、郵便貯金やその他金融機関のマル優制度等に——急速に進展する高齢社会においてマル優制度は公的年金等の不足分を補っているのでございます。

2番目といたしまして、貯蓄思想は自助的努力による生活防衛のためになくしてはならない制度であると存するのでございます。

このマル優制度、すなわち少額貯蓄非課税制度については、中曽根首相も具体的態度を避け、少額所得者、老人、母子家庭などについては十二分に配慮すると述べて、税制調査会の答申を受けて検討していきたいと述べて、廃止に含みを残した発言をしておるのでございます。

金利の引き下げによって大きな打撃を受けた結果は、国民大衆の生活の圧迫につながる結果になりはしないか。

以上、4点の世論調査は国民の7割までがマル優制度の見直しに反対している現状にあることを認識し、このような観点から非課税、マル優制度の廃止には深い憂慮の念を持たざるを得ないのであります。

終わりに、請願の趣旨に御理解のもと、満場の皆さまの御支持をいただき、日本国民大衆生活の幸福の増進のため最大多数の最大幸福を求めて、紹介議員としての責めを果たしたいとお願いいたすのでございます。よろしくお願い申し上げます。

○議長（伊賀多朗君） 説明は終わりました。

委員会付託

○議長（伊賀多朗君） 本請願書につきましては総務委員会に付託いたします。

延 会 午前10時37分

○議長（伊賀多朗君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（伊賀多朗君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は、明9月18日午前10時開会とし、その議事は昭和60年度各会計決算の審議といたします。

○本日の会議に付した事件

1 議案第52号乃至議案第58号

1 請願第4号